

# 資料編

## 習熟度別少人数学習における「担任教師とマイタウンティーチャーとの共通理解を促進する指導体制の工夫」と「児童の適切なコース選択のための支援」についての提案 〈課題1、課題2の解決例〉

長期研修員 青木 京子

### I 単元の指導と評価の計画(全13時間 習熟度別少人数学習全コース)

担任教師とマイタウンティーチャーとの指導体制

コース選択における支援

マイタウンティーチャーと担任教師の授業前後の打合せの内容

時間	コース	学 習 活 動		○評価規準(評価方法)
		基礎	発展	◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
(レディネステストの実施)				
		2年生の学習内容「かけ算九九」3年生の学習内容「0のあるかけ算」(乗法の交換法則)		単元計画と評価規準の検討、授業の流れ、レディネステストの結果、特に指導を要する児童などの確認
打合せ(放課後 約1時間)				
1	○日常生活での買い物場面の想像しながら、文章問題を作ろうとしている。	<b>【指導体制:TTによる一斉学習 クラス単位】</b> 児童が単元の学習内容の概要を把握した上でコース選択をしたり、コース変更をしても戸惑わずに学習ができるようノートを使い方や問題解決の仕方などを学んだりするためにTTによる一斉学習を設定する (担任教師A、B+マイタウンティーチャー) ・買い物場面の絵を見て、文章問題を作る。 ・作成した問題を演算ごとに仲間分けをする。 ・本単元の学習は、乗法の計算であることを知る。 ・ $20 \times 4$ の計算の仕方を考える。		<b>【関心・意欲・態度】</b> ○既習した演算を想起しながら、買い物場面での文章問題を作ろうとしている。(ノート、発言) ◎異なった演算になるような問題を数問作ろうとしている。 ☆乗法になる問題のパターンを提示し、絵を見て当てはまる数字を入れていくよう助言する。
打合せ(休み時間)				
2	○何十、何百×1位数の計算の仕方を考えようとしている。	・ $70 \times 9$ の計算の仕方を考える。 ・ $300 \times 5$ の計算の仕方を考える。 [コース選択1] ①レディネステスト ①本時の理解度(問題例 $60 \times 5$ 、 $20 \times 8$ 、 $30 \times 7$ 、 $600 \times 8$ 、 $400 \times 4$ など) ③本時の学習内容の達成度 ④学習のペースや内容についての自分の適性 ⑤次時からの学習内容についての解決の見通し *①～⑤を点数化し7・8点は発展コース 6点以下は基礎コース ・①②は、それぞれ8割できて2点、それ以下は1点 ・③理解できた2点、理解できなかった1点 ・④じっくり解く1点 難しい問題をどんどん解く1点		<b>【関心・意欲・態度】</b> ○何十、何百×1位数の計算の仕方を既習事項を基にして考えようとしている。(ノート、発言) ◎何十、何百×1位数の計算の仕方を何通りかの方法で考えようとしている。 ☆模擬貨幣を渡すことで10や100を基にして考えればよいことに気付くようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・⑤できそう1点、 難しそう1点</li> <li>・④⑤については、児童の主観で判断され導入の段階では、正しい判断ができないため1点ずつにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〔児童意識調査1〕</p>	<p>本時の児童の様子、各コースに入る児童の様子、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>
打合せ（休み時間）		
3	<p>○2位数×1位数の計算の仕方を考えることができる。</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】          2コースのうち、1コースを 担任教師とマイタウンティーチャーとのTTで行い、指導方法や児童理解の共有化を図る。個人差が大きく多くの支援を要する基礎コースをTTにより指導することが適しているが、基礎コースの児童が発展コースの児童の3分の1以下（目安）の場合には、発展コースをTTとする方がよいと思われる。</p> <p style="text-align: center;">（担任教師A+マイタウンティーチャー）（担任教師B）</p> <p>・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の計算の仕方を考える。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>12 \times 4</math>、<math>23 \times 3</math></p> <p>・2位数×1位数（一の位の数と部分積が2けた）の計算の仕方を考える。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>28 \times 3</math></p> <p style="text-align: center;">〔児童意識調査2〕</p> <p style="text-align: center;">本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○2位数×1位数の計算の仕方を、既習の1位数×1位数や何十×1位数を基に考えている。（ノート、発言）</p> <p>◎2位数×1位数の計算の仕方を被乗数の構成から1位数×1位数（乗法九九）や何十×1位数の計算の仕方に帰着できることに気付きそれを基に手際よく計算する方法を自力で考えている。</p> <p>☆模擬貨幣（10円玉と1円玉）を使って、計算方法を考えるよう助言する。</p>
打合せ（休み時間）		
4	<p>○2位数×1位数の筆算の仕方を考えることができる。</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】          （担任教師A+マイタウンティーチャー）（担任教師B）</p> <p>・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考える。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>23 \times 3</math></p> <p>・2位数×1位数（一の位の数と部分積が2けた）の筆算の仕方を考える。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>28 \times 3</math></p> <p style="text-align: center;">本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○2位数×1位数の計算の仕方を基に筆算形式の書き方としくみを考えている。（ノート、発言）</p> <p>◎筆算形式での計算の仕方のよさに気付き、部分積と結び付けながら、わかりやすく説明している。</p> <p>☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで筆算方法を考えられるようにする。</p>
打合せ（休み時間）		
5	<p>○2位数×1位数の筆算の仕方を理解する。</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】          （担任教師A+マイタウンティーチャー）（担任教師B）</p> <p>・2位数×1位数（一の位の数と部分積が2けた）の筆算の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>28 \times 3</math></p> <p>・2位数×1位数（十の位の数と部分積が2けた、及びみな2けた）の筆算の仕方を理解する。</p> <p style="text-align: center;">主問題 <math>82 \times 3</math> <math>68 \times 3</math></p> <p style="text-align: center;">本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取りの方法や視点などの確認</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。（ノート、発言）</p> <p>◎筆算形式での計算を部分積と結び付けながら説明している。</p> <p>☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるようにする。</p>
打合せ（休み時間）		
6	<p>○2位数×1位数の筆算の</p> <p>【指導体制：2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみ</p>

仕方を理解する。	(担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)	を理解している。(ノート、発言)
	・2位数×1位数(十の位の数と部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算のしかたを理解する。 主問題 82×3、68×3	・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解する。 主問題 29×4、75×4
[コース選択2] ①2位数×1位数の筆算の理解度 (問題例 16×4、28×6、65×8、80×3、25×4など) ②今までの学習内容についての達成度 ③学習のペースや内容についての自分の適性		*①～③を点数化し、6点は発展コース、3点は基礎コース 4・5点は標準コースとする。 ①は、8割できて3点、6・7割は2点、5割以下は1点 ②よくわかった2点、だいたいわかった2点 あまりわからなかった1点 ③じっくり解く1点 難しい問題をどんどん解く1点 児童の主観で判断されるため1点ずつにする。
[児童意識調査3]		
各コースに移動する児童の実態や指導方法、見取りの方法や視点などの確認(特に発展コースから標準コース移動する児童の実態や指導については、綿密に行う)		

打合せ(放課後 約30分)

7	○2位数×1位数の筆算が確実にできる。	基礎	標準	発展	【表現・処理】		
		【指導体制:3コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】 本時は小単元の最後の時間であり、学習内容の習熟を図るために設定したものである。3コースに分け、標準コースをマイタウンティーチャーが担当する。マイタウンティーチャーは、今まで担任教師と一緒に指導に当たってきたので、それを基にして指導を行うことができる。また、発展コースと基礎コースの児童の人数が少なくなり、担任教師が個々の児童の実態に応じた指導ができる。			○2位数×1位数の筆算が確実にできる。(プリント) ◎2位数×1位数の筆算が早く確実にできる。 ☆筆算のルールやかけ算九九をゆっくり確認しながら、筆算を正しく計算できるようにする。		
		・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりがある)の筆算ができるようになる。	・□□ □に0から× □ 9までの数 2□□ 字を入れる 問題を通して、2位数×1位数の様々な場合の筆算ができるようになる。	・□□ □に0から× □ 9までの数 □□□ 字を入れる 問題を通して、2位数×1位数の様々な場合の筆算ができるようになる。			
		[コース選択3] ①2位数×1位数の筆算の理解度 (問題例 16×8、78×9、90×3、85×8、42×5など) ②今までの学習内容についての理解度 (問題例 2けた×1けたの筆算方法の説明) ③学習のペースや内容についての自分の適性 ④次時からの学習内容についての解決の見通し		*①～④を点数化し、6・7点は発展コース 4・5点は基礎コースとする。 ①は、6割できて2点、それ以下は1点 ②説明できる2点、自信がない1点 ③じっくり解く1点、難しい問題をどんどん解く2点 授業が進み、自分の適する学習のペースや内容が判断できるようになってきたと思われるため点数差をつける。 ④できそう1点、難しそう1点 児童の主観で判断される内容であるため1点ずつにする。			
		[児童意識調査4]					
各コースに移動する児童の実態や指導方法、次時の授業の流れ、指導方法や児童の見取りの方法や視点などの確認							

打合せ(休み時間)

8	○3位数×1位数の筆算の仕方を考えることができる。	<p>【指導体制:2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】 (担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)</p> <p>・3位数×1位数(部分積がみな1けた)の計算の仕方や筆算の仕方を考える。 主問題 312×3</p> <p>・3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の計算の仕方や筆算の仕方を考える。 主問題 286×2</p> <p>[児童意識調査5]</p> <p>本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取の方法や視点などの確認</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○3位数×1位数の筆算方法を、既習の1位数×1位数や何十・何百×1位数、2位数×1位数などを基に考えている。(ノート、発言)</p> <p>◎3位数×1位数の筆算方法を被乗数の構成から1位数×1位数や何十・何百×1位数の計算方法に帰着できることに気づき、それを基にわかりやすく説明している。</p> <p>☆模擬貨幣を操作したり、図を描いたりすることで、既習した2位数×1位数の筆算方法を基に考えられるようにする。</p>
打合せ(休み時間)			
9	○3位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解する。	<p>【指導体制:2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】 (担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)</p> <p>・3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算の仕方を理解する。 主問題 286×2</p> <p>・□□□ □に0から9までの数字を入れる問題を□□□□通して、3位数×1位数の様々な場合の筆算の仕方について理解する。</p> <p>本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取の方法や視点などの確認</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○3位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。(ノート、発言)</p> <p>◎筆算形式での計算を部分積と結び付けながら説明している。</p> <p>☆模擬貨幣の操作や図を基にしなが、筆算形式を理解できるようにする。</p>
打合せ(休み時間)			
10	○3位数×1位数の筆算が確実にできる。	<p>【指導体制:2コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】 (担任教師A+マイタウンティーチャー)(担任教師B)</p> <p>・3位数×1位数(部分積がみな2けた、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算ができるようになる。 [児童意識調査6]</p> <p>[コース選択4]</p> <p>①2位数、3位数×1位数の筆算の理解度 (問題例 75×6、58×7、403×2、530×4、618×9など)</p> <p>②今までの学習内容についての達成度</p> <p>③学習のペースや内容についての自分の適性</p> <p>本時の指導方法と児童の様子の確認、次時の授業の流れと指導方法、児童の見取の方法や視点などの確認</p>	<p>【表現・処理】</p> <p>○3位数×1位数の筆算が確実にできる。(ノート、発言)</p> <p>◎3位数×1位数の筆算が早く確実にできる。</p> <p>☆筆算のルールやかけ算九九をゆっくり確認しながら、筆算を正しく計算できるようにする。</p> <p>*①～③をチェックした後、自己判断でコース選択をさせる。しかし、戸惑っている児童には、以下のような配点で点数化し、それを基に判断させる。6・7点は発展コース、4・5点は標準コース、3点は基礎コースとする。</p> <p>・①は、8割できて3点、5割以下は1点、6・7割は2点</p> <p>・②わかった2点、あまりわからなかった1点、わからなかった1点</p> <p>・③じっくり解く1点、少し難しい問題を解く2点、難しい問題をどんどん解く2点</p> <p>・②③も学習内容がほぼ終了し、自分で適切な判断ができるだろうと思われるため点数差をつける。</p>
打合せ(休み時間)			
11	○乗法の結合法則を活用す	<p>【指導体制:TTによる一斉学習 クラス単位】</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○結合法則を活用しながら、3口の乗法の計</p>

<p>ることのよさに 気付き、用いよ うとしている。</p> <p>○乗法の結合 法則について 理解する。(3 口の乗法が1 つの式に表せ ることを理解す る)</p>	<p>グループごとの話し合いを中心にした授業なので、一斉学習で 行う。また、グループの実態に応じた支援を充実させるためにT Tで行う。(担任教師+マイタウンティーチャー)</p> <p>・「買い物ゲーム」のルールを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1こA円のドーナツを1はこにBこずつ入れてもらって、Cはこ 買いました。代金はいくらですか。</p> </div> <p>①3つの箱を用意する。(AとBとC) ②Aの箱から1枚カードをとる。(ドーナツの値段) ③Bの箱から1枚カードをとる。(1箱に入れる数) ④Cの箱から1枚カードをとる。(箱の数) ⑤高い代金になった人が勝ちとなる。</p> <p>・クラス全体で、ゲームのやり方を知り、早く計算する方法を話し合 う。 ・話し合いの中から、『3つの数の乗法が一つの式で表せる』順序を 変えても積が変わらない』ことに気付く。 ・話し合いを基に、グループごとにゲームを行い、結果や気付いた ことを発表する。 ・新しいきまり(結合法則)を知り、いろいろな数値をいれて計算す る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>各コースに移動する児童の実態や指導方法、見取りの方法や視点などの確認(特に発展コースから標準コ ースに移動する児童の実態や指導については、綿密に行う)</p> </div>	<p>算を解こうとしている。(ノート、発言)</p> <p>◎結合法則を活用すると、3口の乗法の計算 が簡単にできることに気付き、進んで用いようど している。</p> <p>☆3口の乗法をそのまま計算する方法と順序を 変えて計算する方法を比較することで、結合法 則を用いると計算が簡単にできることを実感で きるようにしていく。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○3口のかけ算において、新たなかけ算のきま り(結合法則)が成り立つことを理解している。 (ノート、発言)</p> <p>◎どんな3口のかけ算においても、新たなかけ 算のきまり(結合法則)が成り立つことを理解 し、進んで利用している。</p> <p>☆具体的な3つの数を伝え、いろいろな順番 で計算することで、順番を替えても答えは変わ</p>
--	--	---

打合せ(放課後 約30分)

<p>12 ○学習内容を 確実に身につ ける。</p>	<p>基礎</p>	<p>標準</p>	<p>発展</p>	<p>【表現・処理】</p> <p>○学習内容を正しく用いて、問題(2、3位数× 1位数の計算の筆算や乗法の結合法則の計 算)を解決することができる。(プリント、ノート)</p> <p>◎問題を速く正確に解決することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>各コースにおける児童の実態や指導方法 次時の指導方法、見取りの方法や視点 などの確認</p> </div>
<p>【指導体制:3コースによる習熟度別少人数学習 学年単位】</p> <p>本時は小単元の最後の時間であり、学習内容の習熟を図るた めに設定したものである。3コースに分け、標準コースをマイタウ ンティーチャーに任せる。マイタウンティーチャーは、今まで担 任教師と一緒に指導を行ってきたので、それを基にして指導を 行うことができる。また、発展コースと基礎コースの児童の人数 が少なくなり、担任教師が個々の児童の実態に応じた指導がで きる。</p>				
<p>・教科書の練習問題 にじっくり取り組み、 基本的学習内容を 確実に理解する。</p>		<p>・教科書の練習問題 やドリル等に取り組 み、基本的学習内容 を確実に理解する。</p>	<p>・教科書の練習問題 やドリル等に取り組 み、基本的学習内容 を確実に理解する。</p>	

打合せ(休み時間)

<p>13 ○学習内容を 確実に理解す る。</p>	<p>・評価テストに取り組 み、できなかった学 習内容をやり直す。  (担任教師A)</p>	<p>・評価テストに取り組 み、できなかった学 習内容をやり直す。 ・友達が作成した問 題に取り組む。 (マイタウンティーチ ャー) 〔児童意識調査7〕</p>	<p>・評価テストに取り組 み、できなかった学 習内容をやり直す。 ・友達が作成した問 題や発展問題に取り 組む。(担任教師B)</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○基本的な学習内容について理解している。 (プリント、ノート)</p> <p>◎学習内容について、確実に理解している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>各コースにおける児童の実態、単元を通じた指導方法の反省と児 童の評価のまとめ</p> </div>
------------------------------------	--	--	--	---

打合せ(放課後 約30分)

\*表中の児童意識調査は、検証のための資料として、指導過程に位置付け、変容を見取るものであ

る。その方法として、群馬県総合教育センターのWebページ「生徒の授業における意識の変容」のアンケートを用いる。

## II 本時の展開

### 第1・2時（1・2／13時間）〔TTによる一斉学習（学級単位）〕

○ねらい・・・日常生活での買い物場面を想像しながら、文章問題を作ろうとしている。

何十、何百×1位数の計算を、1位数×1位数の計算を基にして考えようとしている。

過程	時間	○学習活動 (予想される児童の反応)	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて				
つ	20	○買い物場面の絵を見て問題を作る。 (予想される考え) ア1こ□円の○○○を△こ買いました。 代金はいくらですか。 イ○○(□円)を買って、1000円出しました。おつりはいくらですか。 ウ○○○○(□円)と○○○(△円)と○○(◇円)を買いました。全部でいくらになるでしょう。 エ○○○(□円)と○○(△円)を買って、1000円出しました。おつりはいくらですか。 ○問題を出し合い、演算による仲間分けをする。	・本単元を通し、多くの児童が日常生活において体験しているお菓子屋さんでの買い物場面を設定し、興味・関心をもてるようにしたい。 ・児童が問題を作成する活動の際には、必ず解答まで考え、自分が解けない問題ではいけないことを伝える。	【関心・意欲・態度】 ○既習事項を想起しながら、買い物場面での文章問題を作ろうとしている。(ノート、発言) ◎異なった演算になるような問題を数問作ろうとしている。 ☆乗法になる問題のパターンを提示し、絵を見て当てはまる数字を入れていくよう助言する。				
		○本単元は、乗法の学習であることを知り、単元全体の学習の計画を立てる。 (予想される考え) ・10円の問題なら習っているよ。 ・312円の問題は、百の位があるから、難しそうだな。 ・20円の問題は、すぐにできそうだな。	・いろいろな演算の問題ができたことを認め、演算による仲間分け(加法、減法、加法と減法、乗法、加法と乗法など)をさせる。 ・乗法以外の問題を数問解かせ、残りの問題は、教室に提示しておく。 ・児童が作成した乗法になる問題については、これからの授業で扱っていく。 ・ウのような問題ができた場合には、11時間目の乗法の結合法則の学習の際に、児童が加法においても結合法則(2年生で学習)が成り立ったことを想起できるようにするために用いる。 ・被乗数が2位数や3位数(10、20、30、28、312など)になるような問題が児童から出なかった場合は、教師が問題例を提示する。					
む	10	○本単位時間の学習内容を知る。 ○問題場面を知り、立式する。 例○○さんは、1こ20円のあめを4こ買いました。代金はいくらですか。 (予想される考え) (理由) ・1つつ×いくつつ分(言葉の式) ・ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td></tr></table> ・1このねだん×買った数=代金 ・ $20 \times 4$ $4 \times 20$ ・ $20 + 20 + 20 + 20$	20	20	20	20	・本単位時間の学習は、お菓子の値段が何十円、何百円になる問題を解くことであることを知らせる。 ・立式する際には、図や絵、言葉の式などで、かけ算の式になる理由がかけるようにする。 ・計算をする前に見積もりをして、問題場面に対するイメージがもてるようにする。	
		20	20	20	20			
○ $20 \times 4$ の計算の仕方を考える。 (予想される考え) ア $20 + 20 + 20 + 20 = 80$ イ⑩が8こだから80 ウ②は⑩が2こだから、 $2 \times 4 = 8$ 、 ⑩が8こで80 エ⑩⑩ ⑩⑩ ⑩⑩ ⑩⑩	・自分なりに考えられた児童には、他の考えはないか、簡単に求められる方法はないかなど考えたり、わかりやすく友達に伝えられるように絵や言葉を付け加えたりするよう助言する。	【数学的な考え方】 ○既習事項を基にして、何十×1位数の計算を考えている。(ノート、発言) ◎「10」を単位にして、既習のかけ算九九を使って考えている。 ☆模擬貨幣10円玉を渡すことで、かけ算九九を使えば答えが出ることに気付くようにする。						
追 究 す る	15	○ $20 \times 4$ の計算の仕方を説明する。	・どの計算方法も認め、共通する計算方法ごとにまとめる。					

追 究	15	<p>○70×9の計算の仕方を考える。 〈予想される考え〉 ア 70+70+…+70=630 イ 70は⑩が7こだから、7×9=63 ⑩が63で630 ウ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ∴ ∴ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩</p> <p>○計算の仕方を説明し合い、簡単な求め方を見付ける。 〈予想される考え〉 ・アやウの考えは、かける数が大きいと大変 ・イの考えのように⑩にするとかけ算九九が使えて簡単 ・⑩で考えると、かけ算九九で答えを出してから0をつけるだけ</p>	<p>・前時と同じ方法で解けばよいことに気付き、解決の見通しがもてるようにする。 ・計算をする前に見積もりをするように助言する。 ・どの方法でも自分なりに考えられたことを認めた上で、次のような支援をする。 アの方法…もっと簡単にできる方法はないかと助言する。 イの方法…友達にわかりやすく伝えられるような工夫をするように助言する。(言葉や絵などを付け加える) ウの方法…もっと簡単にできる方法はないかと助言する。 模擬貨幣…結果を図や絵でノートにかけるよう支援する。</p> <p>・話合いの中から、10を単位にして、そのいくつかで考えると、既習のかけ算九九で求められることに気付くようにしていく。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ○何十、何百×1位数の計算の仕方を既習事項を基にして考えようとしている。(ノート、発言) ◎何十、何百×1位数の計算の仕方を何通りかの方法で考えようとしている。 ☆模擬貨幣を渡すことで10、や100を基にして考えればよいことに気付くようにする。</p>
	す る	20	<p>○問題場面を知り、立式する。 例○○さんは、1こ300円のケーキを5こ買いました。代金はいくらですか。 ○300×5の計算の仕方を考える。 〈予想される考え〉 ア 300+300+…+300=1500 イ 300は、100が3こ、 3×5=15、100が15で1500 ウ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩</p> <p>○計算の仕方を発表し、何十×1位数、何百×1位数に共通する簡単な求め方を知る。</p>	<p>・70×9の計算との相違点が意識できるようにする。 ・話合いの中で、何十×1位数と同じような計算方法でできるという解決の見通しをもてるようにした上で、自力解決の場を設定する。</p> <p>・話合いの中から、10や100を単位にして、そのいくつかで考えると、既習のかけ算九九で求められることに気付くようにする。</p>
ま と め	10	<p>○学習をして分かったことや感想を書く。(自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発言できた)</p> <p>○次時からの学習内容を知り、コースを選択する。(アンケート用紙)</p> <p style="text-align: center;"><b>コース選択1</b></p>	<p>・10や100を単位にして、そのいくつかで考えると、既習のかけ算九九で求められることがまとめられればよい。</p> <p>・次時の学習からは、2位数×1位数の計算になることを伝え、二つのコースから自分で選択できるようにする。また、自分で選択できない児童は相談に応じることも伝える。</p>	<p>☆学習して分かったことについて、一緒に話合いながら記入できるようにする。</p>

担任教師A、B (T1)・・・一斉指導、児童の全体把握  
 マイタウンティーチャー (T2)・・・一斉指導での補助 (児童が作成した問題の黒板への掲示) つまづきのある児童への支援



〔基礎コース〕 第3時（3 / 13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の計算の仕方を既習の学習を基に考えることができる。

過程間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つ か む 10	○問題場面を知る。 例 ○○さんは、1こ12円のあめを4こ買いました。代金はいくらですか。 〈予想される考え〉 ・前の時間と同じようかけ算になる ・ $\textcircled{12}$ $\textcircled{12}$ $\textcircled{12}$ $\textcircled{12}$ ・お金が何十何円になっている。 ・1こ分のお金×何こ分＝代金 ○立式し、答えの見積もりをする。 〈予想される考え〉 ・ $12 \times 4$ ・かけられる数が10よりちょっと大きいから、40より大きい	・前時の学習を想起させ、本時は一の位が0ではないことに気付くようにする。  ・かけ算になる理由を言葉や絵、図などでかくようにする。  ・見積もりをしておよその数をつかんでから計算の仕方を考えていくようにする。	☆問題を把握できない児童には、問題場面を模擬体験する場を設定する。
追 究 す る 20	○ $12 \times 4$ の計算の仕方を考える。 〈予想される考え〉 ⑤ $12 + 12 + 12 + 12 = 48$ ⑥ $\begin{array}{r} 10 \quad 11 \\ \underline{10 \quad 11} \\ 10 \quad 11 \\ \underline{10 \quad 11} \\ 10 \quad 11 \end{array}$ ⑦ $\begin{array}{r} 10 \\ \underline{10} \\ 10 \end{array}$ $\begin{array}{r} 11 \\ \underline{11} \\ 11 \end{array}$ ⑧ $10 \times 4 = 40$ $2 \times 4 = 8$ $40 + 8 = 48$ ⑨ ○○○○○○    ○○○○○○ ○○○○○○    ○○○○○○ ○○○○○○    ○○○○○○ ○○○○○○    ○○○○○○ $6 \times 4 = 24$ $6 \times 4 = 24$ $24 + 24 = 48$ ⑩ $10 \times 4 = 40$ $11 \times 4 = 44$ $12 \times 4 = 48$	・一斉の場で前時の学習を想起させ、同じような方法を使えばできそうだという見通しを立ててから、自力解決の場を設定する。 ・どの方法でも解決できたことを認め、次のような支援を行う。 ⑤の方法…数字をどのように足していったのかを説明をするように助言する。 （場合によっては、模擬貨幣を使う） ⑥や⑦の方法…言葉や式で計算方法を説明できるように助言する。 ○で描いている…2年生の時の学習を想起し、⑧のようなアレイ図で考えるように助言する。 ⑨の方法…どのように考えて分けたのかを友達に分かりやすく説明できるようにする。 ⑩の方法…既習の学習を想起して、考えられたことを認めた上で、違う方法を見付けるように助言する。 ・一つの方法がしっかり考えられた児童には、他の方法も考えるよう助言する。	【数学的な考え方】 ○2位数×1位数の計算の仕方を、既習の1位数×1位数や何十×1位数を基に考えている。（ノート） ◎2位数×1位数の計算の仕方を被乗数の構成から1位数×1位数（乗法九九）や何十×1位数の計算の仕方に帰着できることに気づき、それを基に手際よく計算する方法を自力で考えている。 ☆模擬貨幣（10円玉と1円玉）を使って、計算方法を考えるよう助言する。
10	○計算の仕方を発表し、検討する。 〈予想される考え〉 ・⑥と⑦は同じ考え方 ・足し方によっては⑧は⑨とも同じ ・⑩の式を図にしたのが⑨ ・⑩と⑨は二つに分けて計算している。 10といくつに分けたのが⑩ ・⑨や⑩は、書くのが大変	・それぞれの方法を認めた上で、相違点に気付けるようにし、次のようにまとめていく。 ① 被乗数をそのまま足していく方法 ② 被乗数を二つに分ける方法 ②' 10の位と1の位に分ける方法 ③ 暗算で答えがでる所から乗数分ずつ足していく方法	
ま と め 5	○自分の計算しやすい方法で $23 \times 3$ を計算する。	・どうして計算しやすいと思ったのか、その理由も書くように伝える。	☆計算しやすい方法が見付からない児童は、模擬貨幣を使って⑨の考え方ができるように助言する。

担任教師A（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握

マイトウンティーチャー（T2）・・・一斉指導での補助、つまずきのある児童（模擬貨幣を使う）への支援

〔基礎コース〕 第4時（4 / 13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考えることができる。

過程	時間	○学習活動 (予想される児童の反応)	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	10	○前時の学習を振り返る。 (予想される考え) ・㊸ $23 + 23 + 23 = 69$ ・㊸のやり方ではできなかった。 ・㊹ $20 \times 3 + 3 \times 3 = 69$ ㊹° $10 \times 3 + 10 \times 3 + 3 \times 3 = 69$ ㊹' $10 \times 6 + 3 \times 3 = 69$ ㊹" $10 \times 6 + 1 \times 9 = 69$ ・㊸や㊹は、数字によって書くのが大変だね。 ・㊹ $\begin{array}{r l} 10 & 1 \\ 10 & 1 \\ 10 & 1 \end{array}$ ○本時の学習問題を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">23×3の計算をひっ算であらわそう</span>	・前時の最後の問題の計算方法を発表させ、話し合う中で、どのような数字でも計算しやすい方法を考えていくようにする。 ・何十、何百×1位数の計算を想起することで、㊹の方法を使えば、同じようにかけ算九九を使って計算できることに気付くようにする。 ・加法や減法と同じように乗法にも筆算が使えることを伝える。	
追究する	15	○かけ算の筆算の仕方を考える。 (予想される考え) ・㊹の方法 $\begin{array}{r} 23 \\ \times 3 \\ \hline 9 \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \times 3 \\ \hline 60 \end{array} \quad \begin{array}{r} 20 \times 3 \\ \hline 60 \end{array} \quad \begin{array}{r} 23 \\ \times 3 \\ \hline 9 \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \times 3 \\ \hline 60 \end{array}$ ・㊹の方法 $\begin{array}{r} 23 \\ \times 3 \\ \hline 23 \\ + 23 \\ \hline 69 \end{array}$	・乗法の筆算形式は初めての学習になるので、加法や減法の筆算での計算過程のルールを確認していく。 ①位をそろえて縦に書く ②下の横線は、＝の意味を表している ・一斉の場で筆算方法は『つかむ過程』で扱った式をヒントに考えればよいという見通しがもてるようになった上で、自力解決の場を設定する。 ・どうしても自力で考えられない児童がたくさんいた場合には、集めてT1が支援していく。	【数学的な考え方】 ○2位数×1位数の計算の仕方を基に筆算形式の書き方としくみを考えている。(ノート、発言)----- ◎筆算形式での計算方法のよさに気付き、部分積と結びつけながら、わかりやすく説明している。 ☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式◎になるような考え方ができるように支援していく。
る	10	○かけ算の筆算形式を知る。	・㊹の解答がでた場合には、話合いの中から、㊹は、かける数が大きくなったなら計算が大変になり、縦に長くなってしまうこと、㊹の方法で計算すれば、九九を使って簡単にできることに気付くようにする。	【知識・理解】 ○2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算形式を理解している。(ノート、発言) ◎2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算形式を、部分積と結び付けながらわかりやすく説明している。 ☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるようにする。 ☆書けない児童には、学習内容の説明を補ったり、一緒に考えたりしながら、自分の言葉でまとめられるようにする。
まとめ	10	○適用問題に取り組む。  ○学習をして分かったことや感想を書く。 (自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた)	・本時は児童がかけ算の筆算形式を初めて知ったため、無理に部分積を省略させない。 ・筆算でも、「被乗数を位ごとに分けて、かけ算九九を使って計算すればよい」ことをノートにまとめていけるようにする。	

担任教師 A (T1)・・・一斉指導、児童の全体把握 主に筆算方法が自力で考えられている児童への支援  
 マイタウンティーチャー (T2)・・・一斉指導での補助、つまずきの見られる児童への支援

〔基礎コース〕第5時（5／13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算の仕方を理解する。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	10	○問題場面を知る。 例 ○○さんは、チョコレートを買いました。1このねだんは、28円です。代金はいくらですか。 ○立式し、答えの見積もりをする。 〈予想される考え〉 ・ $28 \times 3$ ・ $3 \times 28$	・立式する際には、図や絵などを描かせることで、かけ算の式になることをおさえていく。 ・被乗数と乗数の数が逆になる児童には、絵や図、言葉の式などから2年生の学習（かけ算の意味）を想起できるようにする。 ・見積もりをしてから計算することのよさの一つとして、正しい答えを出せることであることに気付いていけるようにする。	☆問題場面を把握し、正しいかけ算の式が書けるように模擬体験をする機会を与える。
追	10	○ $28 \times 3$ の筆算の仕方を考える。 〈予想される考え〉 ア $\begin{array}{r} 28 \\ \times 3 \\ \hline 24 \quad 8 \times 3 \\ + 60 \quad 20 \times 3 \\ \hline 84 \end{array}$ ウ $\begin{array}{r} 28 \\ \times 3 \\ \hline 84 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} \textcircled{10} \textcircled{10} \quad \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \textcircled{10} \textcircled{10} \quad \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \textcircled{10} \textcircled{10} \quad \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \hline 20 \times 3 \quad 8 \times 3 \quad \hline 84 \end{array}$ エ $\begin{array}{r} 28 \\ \times 3 \\ \hline 60 \\ + 24 \\ \hline 84 \end{array}$	・十分に筆算形式を理解している児童には、違う方法で答えを確かめたり、前時と違う点を見付けたりするように助言する。 ・ウについては、児童の実態に応じて扱い、アの筆算方法が十分に身に付いていなければ、無理に移行しない。また、ウを扱う際には、加法の筆算方法から「1の位から計算する」「繰り上がりを小さく線の下に書いておくと正しくできる」ことを確認する。 ・エについては、10の位から計算すると、ウの方法を扱う際に繰り上がりがあり書き方が面倒であることに気付けるようにする。	☆筆算が、まだ理解できていない児童には、図や絵などを描かせたり、模擬貨幣（10円玉、1円玉）を使って考えるように助言する。
究	10	○筆算方法を発表し、答えを確かめる。 ○前時に学習した筆算との相違点を考える。	・どの方法でも答えが同じになること、繰り上がりがある場合は、エよりアの考え方が計算しやすいことに気付いていくようにする。	【知識・理解】 ○2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算形式を理解している。（ノート、発言） ◎2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算形式を自分なりの言葉でわかりやすく説明している。
まとめる	15	○適用問題に取り組む。 ○学習をして分かったことや感想を書く。（自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた）	・本時では、ア、ウ、エのどちらかの方法がしっかり理解できていればよいこととする。 ・一の位のかけ算の答えに繰り上がりがあっても、前時と同じ筆算方法でできることがまとめられるようにする。	☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるようにする。 ☆書けない児童には、説明を補ったり、一緒に考えたりする場を設定する。

担任教師A（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握 主に筆算方法が自力で考えられている児童への支援  
マイタウンティーチャー（T2）・・・一斉指導での補助、つまずきの見られる児童への支援

〔基礎コース〕 第6時（6／13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・2位数数×1位数（十の位の数との部分積が2けた 及び部分積がみな2けた）の筆算の仕方を理解する。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	10	○絵と数字（82、68、3）を見て、かけ算になる問題作りをする。 例○○さんは、1こ82円のアイスを買いました。代金はいくらかでしょうか。 例○○さんは、ポテトを3袋買いました。1袋のねだんは、68円です。代金はいくらかですか。	・各自が作成した問題を提示し、乗法の問題として適当か、被乗数と乗数の関係は正しいかといった視点から確認する。	
追	10	○82×3の筆算の仕方を考える。 〈予想される考え〉 ア $\begin{array}{r} 82 \\ \times 3 \\ \hline 6 \\ + 240 \\ \hline 246 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 82 \\ \times 3 \\ \hline 240 \\ + 6 \\ \hline 246 \end{array}$ ウ $\begin{array}{r} 82 \\ \times 3 \\ \hline 246 \end{array}$ ○筆算方法を発表し、答えを確かめる。 ○前時に学習した筆算との相違点を考える。	・見積もりをしてから計算することで、答えを出した際に確かに概算に近い数になることが実感できるようにする。 ・筆算の便利さに気付き、慣れてきたため、ほとんどの児童は、アの筆算で計算するものと思われるが、早くできた児童には、答えを確かめるために違う方法でも解くように助言する。 ・アとウを関連づけ0を取り除くとウになることに気付かせ、より簡単なウの方法が理解できた児童は、移行させていく。 ・十の位の数との部分積が2けたになっても、既習の筆算方法が使えることを確認する。	【知識・理解】 ○2位数×1位数の筆算形式の書き方としくみを理解している。 ◎筆算形式での計算を部分積と結び付けながら説明している。 ☆模擬貨幣や図を基に既習事項を想起することで、筆算形式を理解できるようにする。
すすめる	15	○68×3の筆算の仕方を考える。 ア $\begin{array}{r} 68 \\ \times 3 \\ \hline 24 \\ + 180 \\ \hline 204 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 68 \\ \times 3 \\ \hline 180 \\ + 24 \\ \hline 204 \end{array}$ ウ $\begin{array}{r} 68 \\ \times 3 \\ \hline 204 \end{array}$ ○筆算方法を発表し、答えを確かめる。 ○今までに学習した筆算との相違点を考える。	・見積もりをしてから筆算することで、答えを出した際に確かに概算に近い数になることが実感できるようにする。 ・筆算の便利さに気付き、慣れてきたため、ほとんどの児童はアやウの筆算で計算するものと思われるが、早くできた児童には、答えを確かめるために違う方法でも解くよう助言する。 ・間違いなくウの方法ができるように、十の位の線の下に繰り上げた数を小さく書くよう助言する。 ・イについては（10の位から計算する方法）アの方法と比べさせることで、ウの方法が間違えなくできるのはアの方法であることを理解し、計算方法を変えていけるようにする。 ・部分積がみな2けたになっても、既習の筆算方法が使えることを確認する。	
まとめる	10	○適用問題に取り組む。 ○次時の学習内容を知り、コース選択をする。（アンケート用紙） <b>コース選択2</b> ○学習をして分かったことや感想を書く。（自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた）	・できるだけ一般的な（ウの方法）筆算形式で取り組ませたいが、理解が不十分な児童には、部分積を書く必要がなくなった時に移行していきたい。 ・2位数×1位数の筆算の理解度に応じて3つのコースに分かれることを伝え、自分でコースが選択できるようにする。自分で選択できない児童は相談に応じることを伝える。	

マイタウンティーチャー（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握

担任教師A（T2）・・・一斉指導での補助、筆算形式の理解が不十分な児童への支援

〔基礎コース〕第7時（7／13時間）〔3コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・2位数×1位数の筆算が確実にできる。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	5	○本時の学習の目当てを知る。 2けた×1けたの筆算名人（正しく筆算ができる人）になろう	・基礎コースであるため、早さよりも正確さに重きを置き、一つずつ確実にできることをねらいとしたい。	
追究する	15	○各自 $29 \times 4$ 、 $75 \times 4$ の筆算に取り組む。 ア $\begin{array}{r} 29 \\ \times 4 \\ \hline 36 \\ 80 \\ \hline 116 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 29 \\ \times 4 \\ \hline 116 \end{array}$ ア' $\begin{array}{r} 75 \\ \times 4 \\ \hline 20 \\ 280 \\ \hline 300 \end{array}$ イ' $\begin{array}{r} 75 \\ \times 4 \\ \hline 300 \end{array}$ ○筆算方法を発表し、答えを確かめる。	・アのように部分積を省略しない筆算形式から、なかなか離れられない児童には、イと比べながら0は書かなくてよいことと、部分積の上の部分が繰り上がりになっていることが理解できるようにする。 ・早く筆算ができてしまった児童には、筆算方法の説明ができるように考えたり、類似問題を解いたりするよう助言する。  ・困った所を話し合わせることで、これまでの筆算との違い（部分積を足した時百の位へ繰り上がる、積に空位がある）を明確にする。	【表現・処理】 ○2位数×1位数の筆算が正しくできる。（ノート、発言） ◎2位数×1位数の筆算が早く正しくできる。 ☆筆算のルールやかけ算九九をゆっくり確認しながら、筆算を正しく計算できるようにする。
まとめ	20	○2位数×1位数の適用問題に取り組む。  ○二人一組になり、2位数×1位数の計算問題を出し合う。	・筆算方法の理解が不十分な児童を中心に、つまづいている点を見付け、正しく筆算ができるように支援にあたる。 ・適用問題が終わった児童から、二人一組を作り、問題を出し合うよう助言する。その際には、難しくてもよいが、学習した内容であり、自分でも解けるものにすることを伝える。	
	5	○次時からの学習内容を知り、コース選択を行う。  <b>コース選択3</b>	・次時から被乗数が増えた場合の乗法の学習になることを伝え、二つのコースから自分で選択できるようにする。また、自分で選択できない児童は相談に応じることも伝える。	

〔基礎コース〕 第8時（8／13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考えることができる。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	10	○問題場面を知る。 ○○さんの問題 1つ312円のビスケットのふくろを3つ買いました。代金はいくらでしょうか。 ○立式し、答えの見積もりをする。 〈予想される考え〉 ・1こ分のねだん×買った数（なんこ分） ・312×3 ・3×312 ・312は300に近いから、（300×3）900ぐらいになるかな ・900より少し大きくなるかな	・前時までの問題との違い（被乗数が3けたになること）に気付くようにする。 ・正しいかけ算の式が立てられるように理由を言葉や絵で説明できるようにする。 ・答えの見当をつけることで、筆算方法を考えていく際の間違えに、自ら気付けるようする。	☆被乗数が3けたになるため、かけ算になることがわからない児童には、模擬体験の場を設定する。
追究	20	○312×3の計算方法を考え、答えを出す。 〈予想される考え〉 ア $\begin{array}{r} \textcircled{10} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \textcircled{10} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \textcircled{10} \textcircled{1} \textcircled{1} \\ \hline 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 300 \times 3 = 900 \\ 10 \times 3 = 30 \\ 2 \times 3 = 6 \\ \hline 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$ ウ $\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 6 \\ 30 \\ + 900 \\ \hline 936 \end{array}$ エ $\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 312 \\ 312 \\ + 312 \\ \hline 936 \end{array}$	・2位数×1位数の計算方法と同じような方法で解けそうだという見通しをもたせてから自力解決の場を設定する。 ・どのような方法でも考えられたことを認めた上で、次のような支援を行う。 アの方法…絵から300、10、2を分解して、それぞれに×3 イの方法…式の説明ができるように言葉や絵を加えたり、他の方法でも考えたりするよう助言する。 ウの方法…この筆算方法の説明ができるように、言葉や式を加えさせたり、答えが正しいか、確かめたりするよう助言する。 エの方法…2位数×1位数の筆算を想起させ、他の方法（分解+かけ算）でも考えてみるよう助言する。	【数学的な考え方】 ○3位数×1位数の計算方法を、既習の1位数×1位数や何十・何百×1位数 2位数×1位数などを基に考えている。（ノート、発言） ◎3位数×1位数の計算方法を被乗数の構成から1位数×1位数（乘法九九）や何十・何百×1位数の計算方法に帰着できるとに気づき、それを基にわかりやすく説明している。 ☆『ヒントシート』を見せることで、計算方法の見通しをもてるようにする。 ☆模擬貨幣を操作したり、図を描いたりすることで、既習した2位数×1位数の計算方法を基に考えられるようにする。
る	10	○計算方法を発表し、検討する。 〈予想される考え〉 ・どの計算のしかたでも答えは936になる。 ・イとウは同じ考え方だけ書き方は逆 ・前の時間までに習った計算のしかたでできそうだ。 ・エはかける数が大きくなると大変	・児童の話合いの中から、それぞれの方法の共通する点を見付けていけるようにする。さらに2位数×1位数の計算方法で、3位数×1位数の時の計算もできることに気付けるようにする。	
まとめ	5	○適用問題に取り組む。 ○学習をして分かったことや感想を書く。	・一番良いと思う方法で計算するよう伝える。 ・2位数×1位数の計算と同じ方法で、3位数×1位数の時の計算もできることが、自分の言葉でまとめられるようにする。	☆計算方法に戸惑っている児童には、模擬貨幣を使ったり、絵や図を描いたりして理解できるようにする。 ☆書けない児童には、説明を補ったり、一緒にまとめたりしながら、自分の言葉でまとめられるようにする。

担任教師 A（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握 主に筆算方法が自力で考えられている児童への支援  
 マイタウンティーチャー（T2）・・・一斉指導での補助、つまずきの見られる児童への支援

〔基礎コース〕第9時（9／13時間）〔2コースによる習熟度別少人数学習〕

○ねらい・・・3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2けた）の筆算の仕方を理解する。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	15	○前時の学習を振り返る。  ○本時の問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">286×3の筆算を考えよう</div>	・前時に児童が考えた312×3の計算方法を振り返る場面を設定することで、被乗数が3位数になっても、2位数の時と同じように、位ごとに分けて乗数をかければよいことに気付くようにする。 ・筆算をする前に答えの見当をつけることで、筆算方法を考えていく際の間違えに、自ら気付けるようする。 ・前時の学習で一番良いと思う計算方法で答えを出すように伝える。	
追	15	○286×3の筆算方法を考える。 〈予想される考え〉 ア $\begin{array}{r} 286 \\ \times 3 \\ \hline 600 \\ 240 \\ + 18 \\ \hline 858 \end{array}$ イ $\begin{array}{r} 286 \\ \times 3 \\ \hline 18 \\ 240 \\ + 600 \\ \hline 858 \end{array}$ ウ $\begin{array}{r} 286 \\ \times 3 \\ \hline 858 \end{array}$ オ $\begin{array}{r} 286 \\ \times 3 \\ \hline 286 \\ 286 \\ + 286 \\ \hline 858 \end{array}$ エ $\begin{array}{ c c c } \hline \text{⑩⑩} & \text{⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩} & \text{①①①①①①} \\ \hline \text{⑩⑩} & \text{⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩} & \text{①①①①①①} \\ \hline \text{⑩⑩} & \text{⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩⑩} & \text{①①①①①①} \\ \hline 600 & 240 & 18 \\ \hline \end{array}$	・十分に筆算形式を理解している児童には、違う方法で答えを確かめたり、前時と違う点を見付けたりするよう助言する。 ・ウについては、児童の実態に応じて扱、イの筆算方法が十分に身に付いていなければ、無理に移行しない。 ・2位数×1位数の筆算と同じように、ウのように1列で答えを書く方法はアの方法で考えるよりイの方法で考えた方が繰り返り上りを処理する上で、簡単であり正しくできるとに気付けるようにする。 ・オを考えた児童は、エを利用することで、アやイと同じ考え方であることに気付くようにする。	☆筆算が、まだ理解できていない児童には、図や絵などを描いたり、模擬貨幣（100円玉、10円玉、1円玉）を使ったりして考えるよう助言する。
すすめる	10	○筆算方法を発表し、検討する。 〈予想される考え〉 ・どの筆算のしかたでも答えは858になる。 ・前の時間と違って繰り返り上がりがある。 ・繰り返り上がりがあると、一の位から計算した方がやりやすい。	・児童の話合いの中から、それぞれの方法の共通する点を見付けまとめていく。 さらに一、十の位の数との部分積が2けたになる場合でも、今までと同じ方法で筆算ができることに気付けるようにする。	【知識・理解】 ○3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2けた）の筆算形式を理解している。 （ノート、発言） ◎3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2けた）の筆算形式を自分なりの言葉でわかりやすく説明している。 ☆模擬貨幣の操作や図を使いの方法で計算できるように支援していく。 ☆書けない児童には、説明を補ったり、一緒にまとめたりしながら、自分の言葉でまとめられるようにする。
まとめ	5	○適用問題に取り組む。 ○学習をして分かったことや感想を書く。 （自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた）	・イカウの方法で正しく計算できるようにする。 ・一、十の位のかけ算の答えに繰り返り上がりがあっても、前時と同じ筆算方法で計算できることがまとめられるようにする。	

マイタウンティーチャー（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握 主に筆算方法が自力で考えられている児童への支援  
担任教師A（T2）・・・一斉指導での補助、つまづきの見られる児童への支援

[基礎コース] 第10時 (10 / 13時間) [3コースによる習熟度別少人数学習]

○ねらい・・・3位数×1位数の筆算が確実にできる。

過 程 時 間	○学習活動 (予想される児童の反応)	・支援及び指導上の留意点	○評価項目 (評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つ か む 5	○本時の学習の目当てを知る。 3けた×1けたの筆算名人(正しく筆算できる人)になろう	・基礎コースであるため、早さよりも正確さに重きを置き、一つずつ確実にできることをねらいとしたい。	
追 究 す る 15	○各自473×6、578×7の筆算に取り組む。 ア 473                      イ 473 × 6                        × 6 18                         2838 420 2400 2838  ア' 578                      イ' 578 × 7                        × 7 56                         4046 490 3500 4046  ○筆算方法を発表し、答えを確かめる。	・アのように部分積を省略しない筆算形式から、なかなか離れられない児童には、イと比べながら、位取りがしてあるから0は書かなくてよいことと、部分積の上の部分が繰り上がりになる時は線の下に小さく書くこと理解できるようにする。 ・早く筆算ができてしまった児童には、筆算方法の説明ができるように考えたり、類似問題を解いたりするよう助言する。	【表現・処理】 ○3位数×1位数の筆算が確実にできる。(ノート、発言) ◎3位数×1位数の筆算が早く確実にできる。 ☆2位数×1位数の筆算方法、筆算のルールやかけ算九九をゆっくり確認しながら、正しく筆算できるようにする。
ま と め る 5	○3位数×1位数の適用問題に取り組む。 ○二人一組になり、3位数×1位数の計算問題を出し合う。  ○次時からの学習内容を知り、コース選択を行う。(アンケート用紙) <b>コース選択4</b>  ○学習をして分かったことや感想を書く。(自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた)	・筆算方法の理解が不十分な児童を中心に、つまづきを見付け、正しい答えが出せるよう支援にあたる。 ・適用問題が終わった児童から二人一組を作り、お互いに作成した計算問題を解いていくよう助言する。  ・2位数、3位数×1位数の計算の理解度に応じて3つのコースに分かれることを伝え、自分でコースを選択できるようにする。また、自分で選択できない児童には相談に応じることを伝える。	



〔一斉〕第11時（11／13時間）〔TTによる一斉学習（学級単位）〕

○ねらい・・・乗法の結合法則を活用することのよさに気付き、用いようとしている。  
3口の乗法が一つの式で表せることを理解する。

過程	時間	○学習活動 〈予想される児童の反応〉	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆努力を要する児童の手だて
つかむ	10	○本時の問題を知る。 1こ168円のドーナツを1はこに2こずつ入れてもらって、5はこ買いました。代金はいくらですか。 ○「買い物ゲーム」について知る。 「買い物ゲーム」のルール ・3つの箱からカードをひく。 ・Aの箱から、カードを1枚取る。（ドーナツの値段） ・Bの箱から、カードを1枚取る。（1箱に入れる数） ・Cの箱から、カードを1枚取る。（箱の数） ・高い代金になった人が勝ちとなる。	・今までの買い物場面との相違点を考えさせることで、本時の学習は3口のかけ算になることに気付けるようにする。	
追究す	10	○グループの代表が「買い物ゲーム」を行う。 〈予想する考え〉 ア $168 \times 2 = 336$ $336 \times 5 = 1680$ イ $168 \times 2 \times 5 = (168 \times 2) \times 5$ ウ $168 \times 2 \times 5 = 168 \times (2 \times 5)$ $2 \times 5$ を先にやると暗算でできるよ。 エ どこからかけても答えは同じになるよ。 オ $80 \times 3 \times 5 = (80 \times 5) \times 3$ 5を前にすれば、暗算でできるよ。 カ $98 \times 3 \times 2$ は98が100に近いから600くらいになるよね。	・できるだけ早く結果を出すこと、その結果と計算の工夫を発表できるようにすることを伝える。 ・順に数をかけているグループには、できるだけ早く計算する方法はないか助言する。	【関心・意欲・態度】 ○結合法則を活用しながら、3口の乗法の計算を解こうとしている。（発言、ワークシート） ◎結合法則を活用すると、3口の乗法の計算が簡単にできることに気付き、進んで用いようとしている。 ☆3口の乗法をそのまま計算する方法と順序を変えて計算する方法を比較することで、結合法則を用いると計算が簡単にできることを実感できるようにしていく。
る	15	○グループの結果と計算の工夫を発表する。	・話し合いの中から次のことについて気付けるようにしていく。 ①3つの数の乗法が一つの式で表せる。 ②かける順番を変えても答えは変わらない。 ③どんな数でも結合法則は成り立つ。 ④かける順番を変えると、簡単に計算ができる場合がある。 ⑤加法と乗法のきまりが同じ（第1時に児童が作成した問題の中に3口の加法問題があった時には、この場面で利用する。）	【知識・理解】 ○3口のかけ算において、新たなかけ算のきまり（結合法則）が成り立つことを理解している。（ワークシート、発言） ◎どんな3口のかけ算においても、新たなかけ算のきまり（結合法則）が成り立つことを理解し、進んで利用している。 ☆具体的な三つの数を伝え、いろいろな順番で計算することで、順番を替えても答えは変わらないことが理解できるようにする。
まとめ	10	○3口の乗法の適用問題を行い、新たなかけ算の決まり（結合法則）が成り立つことを確かめる。  ○学習をして分かったことや感想を書く。（自己評価の観点：分かった、楽しかった、考えられた、発表できた）	・適用問題を解きながら、上記の②～④についての理解を深めていけるようにする。 ・自分の力で解けない児童を中心に、上記の②や④を理解できるように支援していく。 ・3口の乗法では、順番を替えても答えは変わらないことや計算が楽になることがまとめられるようにする。	◎どんな3口のかけ算においても、新たなかけ算のきまり（結合法則）が成り立つことを理解し、進んで利用している。 ☆具体的な三つの数を伝え、いろいろな順番で計算することで、順番を替えても答えは変わらないことが理解できるようにする。 ☆書けない児童には、説明を補ったり、一緒にまとめたりしながら、自分の言葉でまとめられるようにする。

担任教師A、B（T1）・・・一斉指導、児童の全体把握

マイタウンティーチャー（T2）・・・一斉指導での補助（児童が作成した問題の黒板への掲示）つまづきのある児童への支援